

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園グループホームほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果確定日	平成26年3月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年2月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

H25年8月で開所4年目を迎える事ができました。初めて市の実地指導を受けたり、周囲の方からいろいろな意見をいただき、また職員のスキルアップや知識の習得に力を入れ、少しずつグループホームを形作り、各ユニットで理念を掲げ、現在では新しい入居者の方々を自信を持って受け入れ出きる様になったと思います。  
 現在居られる入居者の方々には、自分で出来る事は自分でして頂き、他の入居者の方と楽しい時間を過ごされ、自分らしい生活をエンジョイ出来る様に、職員が手伝いながら一緒に生活する事で入居者様とご家族に安心して頂けるように日々努力していきたいと思ひます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

高齢者の人権に配慮したサービスの提供で地域福祉に貢献するとの法人理念に沿って、各ユニット毎に理念を作成してチームケアを実践している。トイレの場所や失禁の不安で混乱する入居者には、安心して暮らせることを目標に食器拭き等の役割づくりを支援し、本人や家族の満足度や気づき等を話し合いで、生活を楽しむ支援に努めている。地域行事の参加や隣接する幼稚園児との交流が継続し、地域のいきいきサロンの担当者と入居者の参加についての検討が予定されたり、来所した民生委員にグループホームについて説明をしている。また、敬老会や花火大会に参加する家族も増え、家族間で話が弾んだり、軽食づくりの手伝いの申し出を受けたり、融雪剤の散布の申し出が今年も家族からある。今後も、地域唯一のグループホームとして、地域との交流や家族の協力をえながら、法人理念の具現化が期待できる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **野のグループ/星寿園グループホームほしのさと**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット毎に理念を掲げ、介護の目標としている。職員の入れ替えもあったため、現在の職員の目指す介護理念を考えてもよいと思われる。	高齢者の人権に配慮したサービスの提供で地域福祉に貢献すると法人理念に沿って、各ユニット毎に理念を作成する予定である。職員各自が目標を作成し、チームケアを実践したいと話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の運営推進会議で地域の区長・民生委員・行政等と情報交換を行い、祭りや地域行事へ参加させてもらっている。ご利用者が地域の人と語り合う姿も見られる。	地域行事の参加を継続し、隣接する幼稚園の園児からお遊戯の披露があったりしている。地域のいきいきサロンの担当者が近々来所し、入居者の参加を検討する予定である。民生委員の来所もあり、グループホームの特徴について説明している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や福祉の会で行われる認知症の講演会のお知らせを民生委員を通じて行ったり、運営推進会議で研修等の報告等を行い、少しずつ認知症の知識を広めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議やご家族からの意見、指摘も含め、職員へ周知し、サービスの改善等に努めている。	定期的に開催され、毎回数名の家族が参加している。ホームの行事や入居者の状況を報告し、会議内容は全家族に送付している。、今年も家族から、道路凍結時の融雪剤の散布の申し出を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	八女市地域密着型サービス連携会議があり、勉強会が行われている。又、空き情報もすぐにFAXで流し、他施設との協力関係を築いている。	地域密着型サービス連携会議に管理者が参加し、情報を交換している。地域包括支援センターに、空き居室の情報を提供している。今回の市の指導は、モニタリング表等を見直す機会になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加等も含め、身体拘束(薬での抑制、スピーチロック、身体抑制)について知識を得るように努めている。玄関は日中施錠せず、できる限り自由に出入りされるよう見守っている。	身体拘束の具体的内容を理解している。全盲の入居者が1人で移動することもあり、「どこに行くのですか」や「座ってください」等の声かけが行動を制止することを理解しながら、事故防止として対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加をはじめ、申し送りや会議、勉強会で虐待について学ぶ機会を作っている。又、職員の言葉遣いや接し方についても必要に応じ個人的に指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に外部の研修に参加したり、施設内で勉強会を行い、各職員が知識の把握に努める。又、必要と思われる家族には情報提供をする。	地域包括支援センターを通じて成年後見制度を紹介したが、利用に至らず、財産管理に苦慮している入居者もある。その関係者の求めに応じて、情報を提供している。	多様な状況も予想されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレット等の整備や、事業や制度の内容やその違いについて研修し、随時関係機関の窓口の紹介をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約において、家族に十分な説明を行い、同意を得ている。又、家族から疑問点や不安な事が見受けられた時は、その都度納得が得られるように説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、地域住民に運営推進会議に参加いただき、運営等について説明を行い、開かれた施設運営できるよう、意見を述べる場を設けている。	ホーム行事時の入居者の笑顔を満載したホーム便りの発行を継続している。敬老会や花火大会に参加する家族も増え、家族間で話が弾んだり、軽食づくりの手伝いの申し出もあった。	ホーム行事後、参加した家族が交流できるような場や機会づくりをお願いします。家族の集まりが、家族会発足のステップになることを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に施設長が職場の雰囲気や職員の意見を聞き取るように努めている。又、月1回ケア会議を行い、意見交換を行っている。	毎月のケア会議で入居者に関する気づきや業務手順の改善などを話し合っている。施設長の個人面談は、就労の更新や職員の自己評価について、意見を伝える機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事評価を行い、聞き取りをしながら職場環境、条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等を採用条件には折り込んでいない。地域サロンへの参加を今後実践していく計画がある。	法人で採用されグループホームで就労したり、隣接する介護保険施設からの異動もある。入職1年目の介護福祉士の資格がある職員は、正職員として雇用されている。職員が協力しながら、昼休みを1時間取ったり、休暇取得や希望するシフトを組んでいる。リーダー研修に参加した職員もあり、研修や資格取得を奨励している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入所者の尊厳を重んじ、人生の先輩として処遇する際には言葉遣い等注意している。又、人権教育や認知症に対する理解を深めるよう勉強会を行い、職員間の意識の統一に努めている。	法人理念を実践するために、日ごろから言葉遣いや接し方について話し合っている。車いすから立ち上がる利用者、「どうされましたか」と、まず本人の思いを尋ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修や外部を交えた勉強会への参加を促がす。又、参加できなかった職員は、後日持ち帰った資料にて情報の共有を図る。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員との勉強会などを利用し、介護の有り方や情報の交換を行うように働きかけている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何かあればご家族に連絡を入れる。ご本人の訴えに傾聴し、可能な限り訴えを実現する為に働きかけるなどし、安心してサービスを利用していただけるよう努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、意向や要望を聞き、サービス提供へとつなげている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	充分なご本人及びご家族との話し合い、必要なサービスや介護を納得されたうえで行うようにしている。必要に応じて他事業所の紹介を行う場合もある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能ができるだけ維持されるよう、可能な事は職員と共に作業して頂くように働きかける。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や変化があった場合等、面会時に話をしたり、緊急の場合は電話連絡をしている。ご本人の要望があれば、直接電話で話していただく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や買い物、季節行事などの際、外出支援を行っている。散髪など要望があれば外出支援している。	お茶の産地でもあり、茶摘みの時期には木ごと提供してもらい、入居者の茶摘みを恒例行事としている。入居者の馴れた手つきで、生き生きとした表情が、ホーム便りで紹介されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会を開き、全員でお祝いしたりして利用者様が孤立されないよう、日々関わりあえるよう支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終わられた方やその家族等からの相談があれば支援を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動や行動の変化や意向の把握に努めている。ご家族に協力いただき、以前住んでいた土地へ出かける支援を行っている。	基本情報やアセスメントシート、モニタリング表を整備し、入居者の思いや意向の把握に努めている。今回作成したモニタリング表では、入居者の満足度もチェックしている。	センター方式のアセスメントシート活用や継続的な記載で、さらなる入居者の状態や変化の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集を行い、入居後も一人一人に不安のない暮らし方に必要な情報を収集し、サービス利用につなげられるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、利用者様の様子観察を行い、心身状態の変化、体調変化に気付いた時は記録を残し、申し送り、情報の共有、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き、各担当者より利用者様の様子や状況報告を開き、又、ご家族の意向を伺いながら支援計画の作成につなげている。	トイレの場所が分からなくなり、トイレを探したり、他の入居者の居室やポータブルトイレで排泄する入居者に、安心して暮らせることを目標に食器拭き等の役割づくりを支援している。担当職員がモニタリングした本人や家族の満足度や気づき等を話し合い、生活を楽しむ支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日誌によって情報共有できている。個別記録は記入しているが、介護計画に沿って記入し、それを見直すまでには完全に至っていない。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態、ご家族の要望を聞き、折り合いがつかない時もあるが、個々に応じたサービスを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問カットサービスボランティアには来てもらっているが、地域活動支援までには至っていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医の受診が必要な時は、ご家族の意向を伺い、主治医に紹介状を書いていただき、受診、通院を受けている。	熱発した入居者があり、法人代表のかかりつけ医から解熱剤の指示が出ている。翌朝受診し、インフルエンザではなかったが、以前から貧血のため、近々家族同伴で受診することとなった。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を受け取ったら、その後の結果や治療方針など申し送り、ノートに記載しスタッフが統一した支援ができるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行い、退院時は病院関係者より電話、サマリーなど情報を受けて利用者の身体状況の把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方が家族と施設に食い違いが生じないように、主治医、家族、施設三者できちんと話し合いができています。	法人として重度化や終末期に向けた方針を整備している。隣接する介護保険施にも入所申し込みをしているが、ホームでの看取りを希望している介護度の重い入居者もある。入居者や家族の意向を重視しながら、ホームで医療処置ができないことを随時説明する予定である。	「最後まで看取りたい」との職員の意識の統一を、研修会等を通じて計られることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成しているが、訓練、研修には至っていない。 AEDの使い方は研修を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の助言をいただき火災避難訓練を実施している。災害時には併設の施設と連絡体制を敷いている。	地元消防団の分団長に、ホームの間取りを踏まえた避難経路について相談する予定である。隣接する介護保険施設との合同訓練後、ホーム独自で避難訓練を実施している。飲料水や食品を備蓄しているが、停電が心配と管理者は話している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった時間を過ごしていただけるようにしている。ご利用者様に対しての言葉使いを丁寧にするように留意している。	入居者の心身の状態に応じた声かけや対応をしている。トイレに頻回に通う入居者は、夜間の声かけで安心できると話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけでなく、自己決定、判断していただくようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人にあったペースで一日の流れを作るようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一回のカットサービス。入浴後クリームをつけていただいたり、朝、髪に櫛を通したりする。選べる方は好きな服を選んでいただく。外出時など、たまに化粧もされる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の皮むき、野菜揃えなど一緒に行う。食器拭きなどの片づけも一緒に行う。	¥	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は定期的に提供する以外にも、必要に応じて提供する。自力で摂取できない方は、介助しながら行い。完全に飲み込まれてから、次を摂取するように心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、義歯洗浄を促す。自力でできない方は、スタッフが預かり洗浄を行う。拒否される方は少し時間をおいて再度声掛けをする。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のチェックは、細目に行い、その方の時間を決めて声掛けを行い、トイレへ誘導する。歩行困難な方は、二人で介助を行い、できるだけトイレで排泄されるよう心掛ける。	毎日排便はあるが、夕食後から就寝するまで頻回にトイレ介助を希望する入居者や、失禁が気になるのか、下着に靴下やタオルを入れる入居者もあるが、本人の気持ちに配慮しながら、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックは、細目に行い、必要に応じて主治医へ相談する。体操を行い体を動かすように努めたり、下剤の処方を行っていただく。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限り同性介助を行い、安心して入浴していただけるように努める。更衣室と風呂場が寒くないよう暖房を入れておく。	車いすや介護度の重い入居者もあるが、職員2人体制で浴槽に浸かるように支援している。入浴を拒否される入居者も浴槽に浸かると、「お風呂が一番」と話されるため、声かけ等を工夫しながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り無理強いせず、本人のペースに合わせて、居室やホールを利用し、生活していただけるように努める。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合は連絡ノートに記入したり、口頭で申し送りしたり、職員全員が把握するように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきやお茶碗拭き、テーブル拭き、洗濯物干しやたたみの手伝いをしていただく。レクリエーションなどを行い、気分転換をしていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や春・秋の季節の良い時に外出を実施している。又、個人支援として自宅までの外出（ご家族の協力を得ながら）等も実施している。	ホーム周辺や地域は風光明媚な場所に恵まれ、季節ごとに花見を楽しんでいる。思うように外出できなかったり、意思表示が困難な入居者は、車いすや職員と一緒に施設の周りを散歩している。花や空気や風で、季節感を肌で感じて外出の気分を味わってもらい、気分転換の場を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてお預かりしているが、ほとんどの利用者様は所持されていない。数名の方のみご家族とご本人の了承のもと、ご本人が管理され、外出時には買い物等ができるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでもご家族に電話ができるようにしている。ご家族にもご協力を依頼している。手紙のやり取りも支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、毎月環境整備を行ったり、手作りで壁に塗り絵や折り紙を貼ったり、行事などの雰囲気作りには十分配慮を行っている。	玄関入口の大きな花器に蠟梅や梅が生けられ、和やかな気分にしてくれる。事務室を中心に左右にある共用空間は、中庭に面して明るく、中央にテーブルやイス、壁際やウッドデッキ前にソファが置かれている。入居者はソファで昼寝をしたり、椅子で寛いだりしている。加湿器が設置され、室温や空調を管理している。中庭の回りに各居室が設けられ、広い廊下は椅子を設置し、歩行訓練の場にもなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事フロアにソファを置き、気の合う方とゆっくりつろいでいただけるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者様、ご家族が持ち込まれた物を配置しており、なじみのものに囲まれて過ごしていただいている。	全居室の入口に部屋の名前と入居者の氏名を掲示しているが、中には大きく名前を記載し、居室間違いを防止している居室もある。ポータブルトイレを設置した居室もあり、入居者の心身の状況に合わせて、居心地の良い環境づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、廊下等は整備し、転倒防止を心掛けている。トイレ、浴室にも支援バーや手摺りをつけて不全麻痺のある方も安心して生活できるよう支援している。利用者様ができることを尊重し、生活の中でのリハビリを取り入れ自立した生活を支援している。		